

4年国語科 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう【ごんぎつね】

本單元における『身に付く力』を培う指導の柱

- ・初発の感想をもとに、「なぜ、こんなに悲しい物語なのか」という大きな問いを設定し、人物像、出来事、情景、人物の心情の変化について、叙述をもとに考え、自分なりの答えを書く。【自学力・探究力】
- ・クラス全員で対話する中で、改めて自分なりの答えを再構築することを通して、いろいろな考えや感じ方があり、どれもがかけがえのない意見であることに気づき、学び合いによって授業前と授業後で自分の考えに深まりが生まれたことを実感する。【自己肯定感】

めあてと学習活動

子供の気付き

単元を貫く問い

『なぜ、こんなに悲しい物語なのか』

第1次

第1時
初発の感想を書こう。

ごんはどんなきつねだろう。
なんて、悲しい話なんだろう。

第2時
「ごんぎつね感想文集」に生かせる学習課題を考えよう。

ごんはいたずらばかり・・・懸命に償いをするけど通じない・・・やっと伝わったと思った時には、ごんは死んでしまう。しかも兵十の手によって・・・
なぜ、こんなに悲しい物語なのだろう。

第3時
「ごんぎつね」の話の設定を確かめよう。

登場人物は、ごん、兵十、兵十のおっかあ、加助。
懸命につぐないを続けるゴンを撃ってしまい、取り返しのつかないことをしてしまった兵十。
撃たれたごんがかわいそう。

第2次

第1時
「ごんを撃った兵十は悪い人間なのだろうか」について話し合おう。

ごんのいたずらは百姓にとっては許せない。いつもいたずらばかりで油断も隙もない。償いに気付いていない兵十にとって、ごんは憎い存在でしかない。撃たれても仕方ない。

第2時
「ごんは悪いきつねなのか」について話し合おう。

確かにいらざらばかりしていたけど、反省し、償いをしているから悪いきつねではない。ひとりぼっちの兵十のことを想って、償いを続けているから悪いきつねではない。

第3時
「ごんと兵十は同じひとりぼっちなのか」について話し合おう。

ごんが「おれと同じひとりぼっち兵十か」と言っていたので同じと思っていたが違っていた。兵十には、加助や村人がいるけど、ごんはひとりぼっちだから違う。

第4時【本時】
ごんの償いの気持ちは兵十に届いたのか考えることを通して、「なぜ、こんなに悲しい物語なのか」について話し合おう。

ごんの行為についてはわかったけど、なんのためにやっていたかまではわかっていない。取り返しのつかないことをしてしまったと感じる兵十の言動から、ごんの想いは届いている。語り継がれていることから、ごんの想いは届いている。
ごんと兵十どちらにとっても悲劇。

第3次

第1時・第2時
学習したことを生かして感想文を書こう

両者共に悲劇だから悲しい。
なぜ、ごんが死ななければいけないのか、読めば読むほどわからなくなる。一度もったイメージは変わりにくい。周りをよく見ないとすれ違い、悲劇になる。自分の生活にも生かしたい。

第3時
感想文を読み合い、学習を通して学んだことを話し合おう。

〇〇さんと同じで、両者にとって悲劇で悲しい話だ。
〇〇さんと少し違って、悲しい話だからこそ伝えたいという作者の想いが伝わってくる。
他の新見南吉作品も読んでみたい。

第4時・第5時
学んだことを基に、新見南吉作品でブックトークをしよう。

結末に注目して、作品を紹介しよう。同じ作品を選んだけれど、テーマが違うだけでずいぶん紹介のしかたが変わるんだな。
もっといろんな本を読んで自分なりに考えてみたいな。